

令和3年度第2回秋田県水と緑の森づくり基金運営委員会

日時：令和3年10月13日（水） 13時20分～

場所：秋田県森林学習交流館プラザクリプトン

○秋田県水と緑の森づくり基金運営委員会委員（五十音順）

- 碓子 進 （税理士法人 福士合同会計事務所 税理士）
大和田 朋子 （秋田市広面小学校 校長）
加藤 薫 （一般社団法人秋田県造園協会 会長）
熊谷 嘉隆 （公立大学法人国際教養大学 理事・副学長）
齋藤 正雄 （公募委員）
佐藤 充 （NPO法人環境あきた県民フォーラム 理事長）
仙道 一吉 （公募委員）

○県側

- 嶋田 理 （農林水産部森林技監）
沼倉 直人 （農林水産部次長）
清水 譲 （農林水産部林業木材産業課長）
三森 道哉 （農林水産部森林整備課長）

◇視察

- （1）皆伐～再造林実施箇所
- （2）豊かな里山林整備事業（緩衝帯等整備）実施箇所
- （3）ナラ枯れ被害拡大地域

◇ 報告

- （1）秋田県水と緑の森づくり税事業の次期計画について

1 開会

事務局が開会を宣言

2 あいさつ

嶋田森林技監があいさつ

3 委員会の成立

事務局が委員10名のうち7名の出席により委員会が成立していることを報告

4 報告事項：秋田県水と緑の森づくり税事業の次期計画について

熊谷会長

本日は報告事項が1件となっております。議事の内容は議事録として、県のホームページに掲載されます。その際にご発言や皆様のお名前とともに公開したいと思います。

ちなみに、これは今までも公開していました。よろしいですか。

碓子委員

令和2年度の基金運営委員会の第3回目の公開はされていましたが、第4回目はHPに公開されていませんでした。何か理由があるのでしょうか。

事務局（加賀谷主幹）

確認のうえ、対応させていただきます。

熊谷会長

それでは、報告事項に入ります。

秋田県水と緑の森づくり税事業の次期計画については、先ほどの挨拶の中で技監の方から説明がありましたが、その方策について説明していただきたいと思います。

事務局、よろしく申し上げます。

事務局（三森課長）

資料4に基づき報告

佐藤委員

資料4で現計画の事業効果等を検証するという一方で、各種目標値があるなかで、数字だけでは必ずしも全体が見えないところもあると思います。成果・事業の評価を見るといって、県民へのアンケートをやりましても、実際に事業を実施した側から、事業の評価をした資料を作成した方が良いかと思っています。これは提案でございます。

熊谷会長

確かに全体像、総合的な評価は必要であるかと思います。現段階のアンケートは大事なのですが、森林経営という極めてプロフェッショナルな視点が要求される場所ですから、そこら辺の事業の分析に関しては、しっかりやった上で次の策定に踏み込むべきということですよ。

事務局、いかがでしょうか。

事務局（三森課長）

ご指摘のとおりであると考えております。県民アンケートもそうですが、実際に事業をされた市町村、ボランティア団体、そういった方々にその効果というのをしっかりと伺いながら行いたいと思います。

熊谷会長

とりあえず、参考資料として取りまとめの経過があると、今後の議論に役立つと思います。

三森課長

はい。了解しました

仙道委員

佐藤委員さんの発言に関連しますけれども、平成 20 年にスタートしたこの税事業は、昨年まで 13 年実施してきたということですが、この中のハード事業で、最も多くの事業費を投じてきたのが針広混交林化事業かと思います。

誘導伐施業をしたことはわかるのですが、実際、自分でやってみると誘導伐施業は非常に難しいです。なぜかという、これまでずっと 20、30 年ぐらい単層林を目指してきたものを急に方向転換した。そういう状況ですから、どういう正当性があるのかを知ったうえでこれからの施業を展開するべきではないかと思います。

ですから、色々な条件によって異なると思うのですが、こういう事例がありますよというのを紹介していただいて、それを基本にして、その地区で針広混交林を進めていくというスタンスを、次期計画に取り上げて検証いただきたいと思います。

熊谷会長

そうだと思います。この辺の研究や対応については、森林総研の方で、こういった何かやっているデータなどがあって、それをもとに全国の林業政策がおこなわれている情報はございますか。

嶋田森林技監

全国ベースでは、森林林業に関しましては森林・林業基本計画が策定されています。その中で、将来の森林の姿について示されていて、今時点の人工林を減らしながら、針広混交林みたいな森林を増やしていきましようという方針については、日本全体で示されています。

混交林の施業そのものについては、色んな地域性がございまして、秋田県でこういったものがあるのかというのは、林業研究研修センターが出している普及冊子に事例が色々載っていると思いますので、その辺りのものと、この税事業で具体になったところを数字や写真で、具体的にわかるような形でお示していければと思います。

熊谷会長

ありがとうございました。

どうしても実験的な要素があるっていうのは十分理解していますが、そのうえでしっかり整備しているのかを長い目で見ると必要があると思います。然るべきタイミングで、進捗状況などを共有していただければと思います。

ほかに、何かありますか。

私からですが、森林環境税・森林環境譲与税の棲み分けの検討事項については、基金運営委員会で行うでしょうか。

事務局（三森課長）

棲み分けについてはこちらで検討していきたいと思います。皆さんにはどちらの事業でどういったことを行うかという取組について、お知らせする意味で示したところです。

熊谷会長

そういうことだろうと思います。これは、秋田県の森林あるいは全国の森林に対しては良いことだと思います。お金は相当入ってくるのでしょけれども、市町村で現場の様子を把握して、何らかの施策を県と連動しながらやっていく余力・能力があるのかと悩ましいところはあるのですが、そこら辺いかかでしょう。

事務局（三森課長）

県では環境税譲与が譲与されるということで、支援員を配置しており、市町村に対して助言・指導をする人材を確保しております。また、各種研修を行い、市町村の事業を実施する方をバックアップする体制をとっております。

熊谷会長

皆さん、いかがでしょう。よろしいですか。

では、2点あります。

1点目は、佐藤委員からのご提案で、第1期第2期いろいろなことをやっている。特に第2期に関しては、個別の数値目標の達成具合、それを網羅した総合的な分析が必要で、そのうえで、次期計画の策定に繋がるだろうというご指摘でした。

2点目は長期間の針広混交林の推移というか、中間情報も取りまとめて、資料としてまとめていただきたいと思いますので、ご対応をよろしくいたします。

皆さん全体を通して何かございますか。

それでは、進行を事務局にお返ししたいと思います。ありがとうございました。

事務局（加賀谷主幹）

熊谷会長ありがとうございました。また、委員の皆様には、いろんなご意見をいただき、ありがとうございました。

先ほど会長の方からまとめていただきました2点につきましては、次回もしくは次々回まで内容等をまとめ次第、報告させていただきますのでよろしくお願い致します。

また、今日の議事の内容につきまして、こちらの方で、議事録の方を作成し、後日、委員の皆様にお送りいたしますので、目を通していただき、ご自身の発言について、ご確認いただければと思いますので、よろしくお願い致します。

次回、第3回の委員会につきましては、12月の中旬頃に開催したいと思っておりますので、ご出席をよろしくお願い致します。

以上をもちまして、令和3年度第2回秋田県水と緑の森づくり基金委員会の方を閉会したいと思います。

どうもありがとうございました。